

# くらしのヒント!

J A 事業 Q & A



## Q 「建物更生共済むてきプラス」 の特徴は?

**A** 火災や地震はもちろん、台風やゲリラ豪雨などの自然災害に備え、保障内容が充実しています。

《ポイント》

- ①「実損てん補方式」という支払方法で、損害額を  
しっかりカバー！小さな損害でも安心です。
- ②水災の時の保障が充実！「臨時費用共済金」「特別  
費用共済金」をお支払いします。
- ③同一敷地内の付属建物・工作物（門、塀、カーポート等）を自動保障します。

さらに、水道管の凍結による損害等も手厚く保障します。現在ご加入されている建物更生共済の保障点検も行っていますので、お気軽にJA各支店・出張所のLA（ライフアドバイザー）にご相談ください。



藤沢支店 LA 皆川 寿博

## あぐりジャーナル

“つくる”をテーマにJA役員が  
思いを綴ります



専務  
佐藤 和美  
(花泉)

## 地域農業と地域社会を 支えるJAへ

JAでは現在、「農家組合員の所得増大と農業生産の拡大」「地域の活性化と結びつきの強化」「組合員に評価される組合経営」の3つを最重点施策に、第3次中期経営計画の確実な遂行に向け取り組んでいます。JAがこれまで果たしてきた地域農業、地域社会での役割を再確認しながら、具体的な実践項目を示したマスター工程表の実践を通じて計画の実現に努めていきます。

国内では依然、新型コロナウイルスの感染拡大が続き、春先のイベント中止による花の需要減少の他、インバウンド需要の激減により枝肉相場の低迷などの影響が出ています。このような状況に対応するべく、JAグループでは政府や行政への対策や支援の要請を行っています。当JAでも新型コロナウイルス災害対策本部を設置し、店舗窓口の安全確保や会議の在り方、消費拡大運動などの対策を行ってきました。今後も状況に応じた対策の検討と対応をしていきますので、地域組合員皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

職員を紹介します



経済 小岩 俊彦	経済 千葉 純一	信用窓口リーダー 佐藤 菜々子	信用窓口 齋藤 由美	共済渉外 石川 俊	信用渉外 加藤 佑弥
共済窓口 福島 恵美	所長代理 金田 洋江	所長 阿部 恵美子	所長代理 阿部 弘晶	共済窓口 今出 こゆき	

信用・共済・経済業務で地域の皆さんに期待と信頼をしてもらえるよう努めていきます。たくさん食べ、元気なあいさつ、にぎやかな雰囲気です。

モーター  
地域に根差し、気軽に立ち寄ってもらえる元気な店舗を心掛けています

今月の  
あんぎや!  
行脚

こんにちは  
厳美出張所

です。





## 華やかな鉢でお迎え



女性部  
通信

ボリュームのある鉢植えが完成

J A女性部花泉中央支部家の光記事活用グループは7月30日、グループプランツを作りました。マリーゴールドやキバナコスモスなど5種類の花を鉢に寄せ植えて、ボリューム感のある鉢植えを完成させ、J A花泉営農経済センターの玄関に飾りました。佐藤セイ子部長は「新型コロナの影響で沈みがちな心を華やかな鉢植えを見て少しでも癒やしてほしい」と話しました。



JA YOUTH

## おいしく食べてね



青年部  
通信

渡部園長<sup>㊦</sup>に野菜を渡す菅原部長

J A青年部協議会は8月25日、児童養護施設一関藤の園にトマトやピーマンなどを贈りました。青年部が育てたもので、子どもたちに地域で栽培された野菜を食べて元気に過ごしてもらいたいとの思いを込めました。渡部俊幸園長は「一つも無駄にせずいただきます」と話し、J A川崎青年部の菅原哲部長は「盟友が快く提供してくれた野菜をおいしく食べてもらいたい」と話しました。

## ケアコンシェルジュ

### 夏まつり盛大に

金魚すくいや的あて、くじ引きの縁日や、職員が踊る「お祭りマンボ」で楽しみました。



### にぎやかに夏まつり開催

華やかな衣装やフラワーレイを身に付け、須川節を踊りました。



### お誕生日

### おめでとうございます

訪問介護利用者の佐藤敬さんは8月13日、100歳のお誕生日を迎えました。



JAデイサービスセンター

〒029-0803

一関市千厩町千厩字境田 153-12

TEL 0191-52-5668

いっいの丘

JAデイサービスセンター

〒021-0901

一関市真柴字原下 4-1

TEL 0191-31-1538

もぐり



・ススキを飾る意味  
本来はススキではなく、「お米の稲穂」が月の神様のより代と言われています。この時期にはなかつたため、代用として形の似ているススキを使ったと言われています。

・月見だんごの意味  
団子が月と同じように丸く、欠けても満ちる月を生や不死の象徴と考えて愛したことから、食べることで健康や幸せが得られるという考えに基づいています。十五夜には15個お供えるのが一般的となっています。

・お月見の由来  
中国では初秋〜晩秋にかけて、その月の満月を拝み月をめでる習わしがありました。それが日本にも伝わり、この時期は農作物の収穫期とも重なり、豊作を祈る収穫祭を行う日として親しまれ、一般家庭にもお月見が定着していきました。

満月を眺めて楽しむ「お月見」

葬儀マナー

ガッシーくんがお答えします！

